



疑問や情報をお寄せください。

みなさんからの情報や疑問をきっかけに調査します。

QRコードから「これ知りたい」「あれに困っています」をお寄せください。

「住民こそ主人公」



「きずな」の定期配布

「きずな」は、市政や市議会など身近な情報を提供する地域情報紙をめざしています。定期的な配布(無償) 希望の方は連絡を下さい。

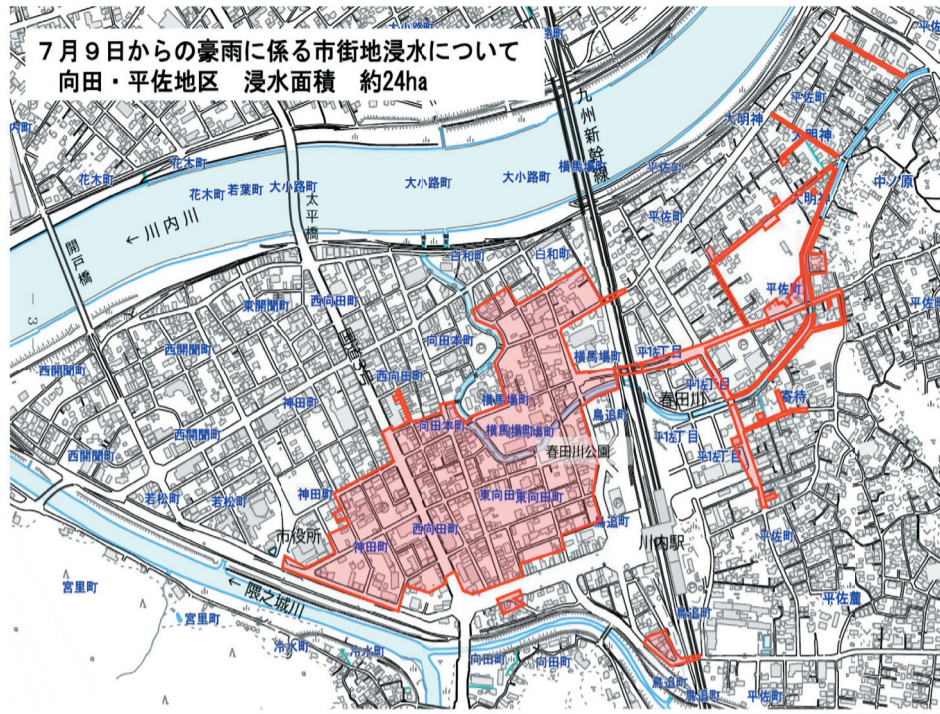
第967号

2021年8月1日(日)

発行 日本共産党井上かつひろ事務所 薩摩川内市樋脇町塔之原 10439

TEL 38-0237 携帯 080-3996-0237

ワクチン接種Q&A② (二面掲載)



※本資料は薩摩川内市の調査結果に基づくもので

7月9日からの豪雨によって向田・平佐地区で中心市街を通る春田川の水があふれ、約24ヘクタールが浸水し、住宅や商業施設など142棟が被害にあいました。防災地球科学の専門家・福留高明さんは、「もしポンプ・トラブルがなかったならば、ゆうに全量を排水でき、氾濫はまったく起きなかったのである」と指摘しています。

「観測値に基づいて氾濫域の最大浸水深さを40cm(換算すれば平均浸水深さ20cm)、浸水面積を24ヘクタールとすると、今回の水害で氾濫した水の全量は、240000×0.4=2148000立方メートルとなる。ポンプが正常に稼働した場合、1基のポンプの排水能力は300立方メートル/分であるから、上記氾濫水を排出するのに必要な時間は、48000÷300=160分となる。ところで、今回、ポンプ・トラブルによるロスタイム2基のうち1基が稼働できなかった時間は6時34分から9時09分までの155分で、上記時間とほぼ同じであった。このことは、故障・停止したポンプのせいで、氾濫水のまさしく全量を排出できなかったことを意味する。つまり、ポンプ・トラブルの影響は過小評価などできようもない100%近いものであったことが分かる。もしポンプ・トラブルがなかったならば、ゆうに全量を排水でき、氾濫はまったく起きなかったのである。」

ポンプが動いたら浸水被害はなかった



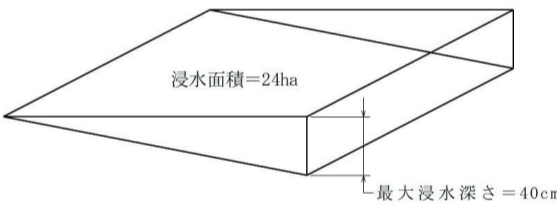
福留高明さん

7月9日からの豪雨によって向田・平佐地区で中心市街を通る春田川の水があふれ、約24ヘクタールが浸水し、住宅や商業施設など142棟が被害にあいました。防災地球科学の専門家・福留高明さんは、「もしポンプ・トラブルがなかったならば、ゆうに全量を排水でき、氾濫はまったく起きなかったのである」と指摘しています。

(福留氏の指摘)
厳密な計算は誰がやってもどだい無理なので、下図のような形状をなす単純化した氾濫域モデルを仮定する。ここま

で単純化しても実際の数字との間には大きな差はない。観測値に基づいて氾濫域の最大浸水深さを40cm(換算すれば平均浸水深さ20cm)、浸水面積を24ヘクタールとすると、今回の水害で氾濫した水の全量は、240000×0.4=2148000立方

メートルとなる。ポンプが正常に稼働した場合に、1基のポンプの排水能力は300立方メートル/分であるから、上記氾濫水を排出するのに必要な時間は、48000÷300=160分となる。ところで、今回、ポンプ・トラブルによるロスタイム2基のうち1基が稼働できなかった時間は6時34分から9時09分までの155分で、上記時間とほぼ同じであった。このことは、故障・停止したポンプのせいで、氾濫水のまさしく全量を排出できなかったことを意味する。つまり、ポンプ・トラブルの影響は過小評価などできようもない100%近いものであったことが分かる。もしポンプ・トラブルがなかったならば、ゆうに全量を排水でき、氾濫はまったく起きなかったのである。」



福留氏の「氾濫域モデル」

JCP 99th anniversary

日本共産党 創立99周年記念講演会 オンライン

新しい 東京都議 19名勢ぞろい

8/4 wed 18:00 中継開始

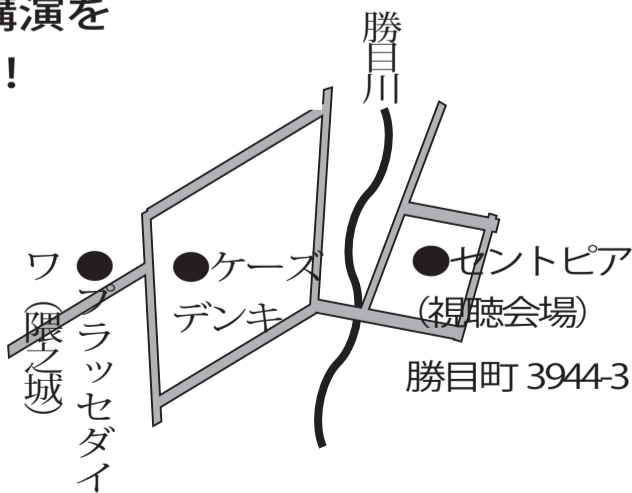


記念講演 志位和夫 委員長

パンデミックと日本共産党の真価

党創立99周年記念講演をみんなで視聴しよう!

日本共産党中央委員会主催の党創立99周年記念講演が東京で行われます。講演のようすはインターネットで視聴できます。視聴会場は「薩摩川内市セントピア」です。感染対策に十分気をつけながらご参加ください。



道に迷ったら 080-3996-0237 (井上) へ

生活保護者 ワクチン接種のときの交通費を支給
先週のこちくらし No. 468 「安全装置と道路愛護」で紹介した県道わ

こちくらしの相談所 (No. 470)

なんでもご相談ください。携帯 080 (3996) 0237

市議会議員 井上かつひろ

きの除草作業がありました。相談者から「草払い、ありがとうございまして。すっかり刈ってあつて走りやすかったです」とお礼のメールが届きました。

全国生活健康を守る会連合会発行の新聞は、少しでも生活を楽にするための情報や制度を紹介する新聞といつていいと思います。何気なく眺めているとふと気になる記事がありました。「生活保護者のワクチン接種の交通費は

支給の対象になる」というものです。さっそく薩摩川内市役所保護課に問い合わせました。すると翌日には私の携帯に電話がありました。「おっしゃるとおりです。今から対象となる人に通知を送るところでした」という返事でした。ワクチン接種がまだという人は、ケースワーカーに相談してください。すでにワクチンを持ったという人は、証明を持っていけば交通費が支給されます。

シリーズ

新型コロナウイルスワクチンQ&A ②

※文中に出てくる“こびナビ”のアドレス
<https://covnavi.jp/>

Q 通常のワクチンの開発・治験が10年かかるのに、1年で承認されたのは異常では？動物実験が省略されたという情報も聞いたが？

A これも、※「こびナビ」をご参照ください。

開発から承認までの期間が1年程度ですんだことについては、①各国政府が思い切った資金を投じ、製薬メーカーが経営上のリスクを考えずに、短期間で治験に持ち込めたこと、②欧米の感染者

て、動物実験が省略された、というのも、誤情報です。メッセンジャー

Q 「m-RNAワクチン」の動物実験に使われたラットが、2年以内に全部死んだというのは本当か？

A 動物実験に使われているラットの寿命は、もともと2年です。人間の寿命に直すなら、「接種を受けただ人が、100年以内に全員死んだ」といっているのと同じ

Q メッセンジャーRNAワクチンは遺伝子組み換えで人体に重大な悪影響を与える？

A それも、ネット上を流れている虚偽情報です。「こびナビ」をご参照ください。

確かに、ファイザー社製とモデルナ社製のワクチンでは、新型コロナウイルスの遺伝子の一部を、“遺伝情報の運搬役”であるm-RNAを用いて人体に接種するといった、新しい技術が使われ

ています。RNA (m-RNA) を用いたワクチンの技術は、20年にわたる基礎研究の蓄積のうえに開発されました。その研究の過程では、動物実験による有効性・安全性の確認が行われています。

しかし、前述のとおり、この技術の安全性・有効性は、約20年間にわたる基礎研究により、すでに確認されていたというのが、感染症医学会の共通認識です。従来、使われてきた「生ワクチン」や「不活化ワクチン」は、毒性や感染力を抑える処置を施したうえで、病原体ウイルスそのものを接種・投与します。そのウイルスには、当然、遺伝子(RNA、DNA)が含まれています。つまり、これまでのワクチンも人体にウイルスの遺伝子を入れるのは同じです。「m-RNAワクチン」が、「生ワクチン」や「不活化ワクチン」と違うのは、ウイルス本体から切り離れた遺伝子の一部だけを投与するということです。

多くの専門家は、DNA・遺伝情報を含む“ウイルス丸ごと”を投与する従来のワクチンよりも、“ウイルスの遺伝情報のごく一部だけ”

を接種する「m-RNAワクチン」のほうが、より高い安全性を持つことを強調しています。一部ネットサイトに「RNAは永遠に体内に残る」「RNAが人間の遺伝子(DNA)にも影響を与える」などと書かれています。実際には、「RNA」は体内の酵素によって分解され、最長でも数日間ですべて消滅することが動物実験で確認されています。

接種によって体内に入ったRNAは、細胞の核内に入らず、DNAにふれることもできないというのが、感染症医学の専門家の説明です。

新型コロナウイルスに「自然感染」をした場合に、体内に侵入したウイルスの遺伝子は、大量に増殖し、何百万という規模で人間の細胞を壊していきます。そうした人体が危機的事態に陥ることを防ぐため、事前に免疫を獲得しておく手段がワクチンの予防接種です。(次号に続く)

エプロンおばさんの簡単クッキング



ポーク丼 (豚)

(材料)

- うす切りロース……200g
- 大葉 (青ジソ)
- みょうが (あれば)

(A) ポークソース……ソース、酒、さとう、みりんの各1/4カップをナベに入れて半分になるまで煮詰める。

つくりかた

- ①ロースをフライパンで炒める。
- ②丼にごはん、みょうが、シソの細切り、①のうす切りロースをのせ、(A)のポークソースをかけて召し上がれ。新キャベツをきざんでのせても。

中俣先生の つれづれなるままに (657)



IOCのバツハ会長と菅首相が会談し、「今回の東京オリンピックは歴史的なものになるだろう」と話し合ったという。何が歴史的かは、今号の“きずな”を読者が手にするころには、大会そのものが明らかにするだろうが、私には二人の会談は、キツネとタヌキの化かしあいまいで、なんとも滑稽に見えた。滑稽といえば、6日夜の「NHKニュース7」の「東京五輪日本代表選手団壮行会」だ。なんか二人のミュージシャンが、ギター片手にワーワーわめいているなかキラキラ交錯し、それが27分間も続いた。もっとも、27分間というのはあとで知ったことで、その日はすぐにチャネルを切り替えたが、これがNHKの実態である。もっとも国民の関心を引く大事な報道があるのではないかと、その日はがっかりして元氣も出なかった。バツハ会長も菅首相も、安心安全なオリンピックより、安心安全な国民生活のことを考えて欲しい。つい先日のことだった。熱中症の心配もあり、児童クラブの子どもたちをわずか15分だったが外に連れ出した。子どもたちは解放された駒のように走り回り、あぐらの果ては気持ちよさそうにドテツとグラウンドに仰向けになった。その幸せに満ちた開放感あふれる表情を見ながら、コロナ禍の抑圧感に苦しんでいるのだからと胸が痛んだ。そして、思うことだった。オリンピックに使うお金があるなら、そのお金をコロナ対策に回し、子どもたちをマスクから解放して欲しい。(高来児童クラブ支援員)

←中俣先生のブログはこちら

